

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173501271), 法人名 (医療法人社団 上田病院), 事業所名 (グループホーム あいあい 桃ユニット), 所在地 (登別市美園町4丁目23-9), 自己評価作成日 (令和 1年 8月16日), 評価結果市町村受理日 (令和元年10月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人の人間として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活を実現できるように努めている。
その人が持っている能力を最大限に発揮し可能な限り自立した生活ができるように適切な介護を継続する。
身体拘束しないを目標にし日頃から事例検討をしてスタッフ同士の意識を高め努力している。
承諾の頂いている4名の方がいますが、1の方が年に2~3回病院受診のため使用するがそれ以外はスタッフの声かけ・見守り・1階スタッフの応援により、身体拘束はおこなっていない。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosyoCd=0173501271-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年9月20日)

Empty table box for external evaluation results.

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み馴れた地域での生活の中で現在の機能を維持しながら安心して生活できるようにケア理念を共有し、実践出来る様に話し合い、年間目標を決めて実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しお祭りや町内会の行事に参加したり、あいあいの行事に町会の方々も参加していただき交流している。 (防災訓練、バーベキュー等)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一度運営推進会議を実施。町会・包括・消防・市役所・家族が参加情報や意見の交換をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告や意見の交換をしながら改善出来るように取り組んでいる、家族・利用者が参加している。議事録は通信で家族へ報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入所状況、待機者状況の報告書を提出している。運営推進会議に出席して頂き報告・連絡等をこまめに行っている各種届出など指導頂きながら進めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置、玄関の施錠は夜間のみ行っている、緊急やむを得ずの条件を満たしている該当者4名には家族から承諾の署名捺印を頂いているが病院受診時以外は、身体拘束は行っていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で事例検討を行い職員が学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。接遇委員会にて情報収集や共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修などを通じて学ぶ機会を持つ様になっている。地域包括センターと情報の共有や連絡している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時書面をもって説明、署名捺印を頂いている。契約時及び面談時他、本人家族の不安や疑問など解決出来るように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情があった場合は速やかに施設長に報告し職員全体へ周知を行い改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見等については都度施設長に上申している。意見、要望を言える場として、ユニット会議やリーダー会議を実施し反映に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための研修等への参加、担当業務の割り当て、毎年自己評価の実施、実績に応じた昇給がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な職員研修の実施、研修会、講習会への参加を進めている、事例検討を利用して個別に不得意分野等を習得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、広域連絡会での情報交換、市や地域包括支援センター主催の事例検討会や研修会の参加をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や紹介元から情報収集を行っている本人家族と面談を行い要望、心配事などを確認し対応策を検討している。安心安全を第一に考え対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族や紹介元から情報収集を行っている本人家族と面談を行い要望、心配事などを話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の意向を確認し必要としているサービスと支援する側として必要なサービスを提示、より良いサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを第一に考え信頼関係を構築しながら、職員は共に生活する一員として、お互いに助け合いながら、生きがいや役割を実感できるように、関わりをきづいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時や電話での連絡を密に行い情報を共有できるようにしている。家族の思いやホーム側の意向とすりあわせて家族の理解協力を得ながら関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出、面会は自由に行っている、友人や近所の方の面会もあり、また行事等にも参加して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に人間関係が築けるように座席の工夫や行事や場面の設定、職員の仲介し良い関係作りなどが出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去する際などは家族・入院先と連携し情報を共有し本人・家族が安心して過ごせるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の意向を聞き取りスタッフの意見を総括してアセスメントに配慮。本人の望みに沿って出来るようにつとめている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や紹介元より、情報を収集し、本人の暮らしが健康かつ精神的にも安定して継続出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報収集しアセスメントに力を入れて様々な場面を提供しながら個別に対応出来るようにつとめている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集し偏った内容にならないように、スタッフ、家族の意見、気づきを大切に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づきケアを行いそこから発見や気づきを大切に必要に応じて臨機応変に追加しながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ること、出来ないことを見極め臨機応変に変更しながら柔軟に個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会・包括・消防・家族などと協力し情報を共有し行事に参加や暮らしが途切れないように外出の機会を作り支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関への受診をしている。必要に応じて母体医師より他の医療機関への紹介等を行い適切な医療が受けられるように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師の巡回及び連絡を毎日行い症状や経過を速やかに報告し医師と連携しながら適切な受診、治療が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供を行い、入院中も安心して過ごせるように努めている。回復状況を確認しながら病院と連携、早期に退院が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には「看取りに関する指針」について説明、入居後3か月を目途に「週末期の覚書」を家族本人と共に作成している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基に様々な場面を想定し日々シュミレーションを行っている。実施した内容を業務日誌へ記入している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回実施。町内会の参加もあり協力体制を整えている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別に声掛けの方法、口調に気を付けている。オムツ等の取り扱いには十分に注意するように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声掛けや二択三択と選択できるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて、どう過ごしたいか選択できるように提示しながら、安心して過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容・洗面・化粧・髭剃り等の支援を行い日中もさりげなく手直しを行うように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチン内の役割として食器を拭いたり、盛り付けを行っている。色どりやあん等を掛け食べやすくしたり、声掛けで味を伝えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や体力に応じて一日5回食でバランスを整えたり、夜間に水分を提供を行っている。個別に常食・キザミ食・ペースト食と対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行いブラッシングの支援を継続して行い歯肉炎の予防している。 夕食後は入れ歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや誘導の時間を見極め事でオムツの使用枚数を減らしている。立位保持が困難も二人介助で安全にトイレで排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、下剤調整、腹部マッサージ等を行い排泄を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分などに注意して脱衣室に行ける声掛け、歌を歌いながら向かったりと楽しめる環境を心がけている。湯船の温度は個々に合わせて調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせた休息を心がけて、出来ない方は誘導しながら安楽に過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬の一覧を作成し職員全体で共有している、誤読がないように読み上げや袋の確認を複数で行っている。病状の変化が合った時は医師・看護師に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・盛り付け・洗濯物干し・たたみ等を個別に支援し周囲との関わりをバランス良く取り入れた場面の工夫を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行ける方はスタッフと一緒に地域の店にでかけている。四季を感じて貰えるように花見・お祭り・ぶどう狩を計画し出掛けられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望や混乱などを考慮して所持していないが体調に合わせて一緒に買い物へ行き必要な日用品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており希望時は電話を使用している。混乱を招く場合もあるので積極的には行っていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは十分な広さがあり安全面にも考慮して状態に合わせた環境作りに努めている。個々が安心して過ごせる場所を提供し装飾などで季節を感じられる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室・リビングを歩き回している。一人になる空間や皆で楽しむ空間を作り一人一人が自由に過ごせる場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族本人と相談の上なじみの物や趣味の物、安全な物を設置している。本人が安心して居心地よく過ごせるように、状態に合わせて設置場所を変えるなど工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることが続けられる様にわかり易く説明し一緒に作業を行っている。階段昇降・体操など毎日継続して行い体力・筋力維持に努めている。		